

e-24) シロスジコガネ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「1980 年代以降減少傾向にある」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する⁴⁷⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

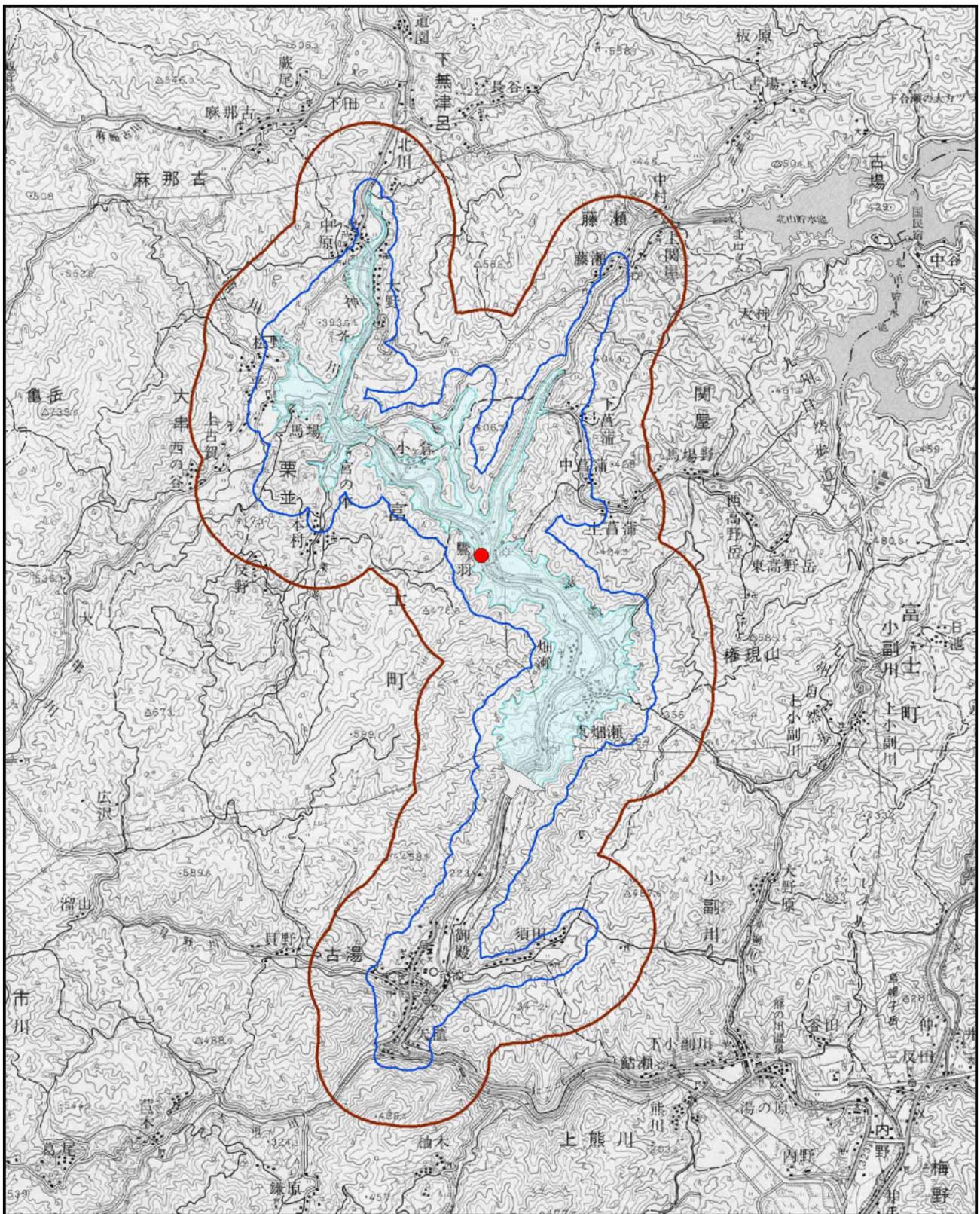
海岸地方に産し、灯火に集まる⁴⁷⁾。海岸のマツ林に多い⁴⁸⁾。幼虫は海岸付近の砂地にすみ、根を食べて育つ⁴⁹⁾。初夏の頃蛹化、夏、成虫となって出現、灯火にも飛来する⁴⁹⁾。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(21)に示す。

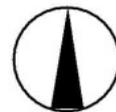
本種は、平成 9 年度の調査において、栗並地区の鷹ノ羽集落周辺 1 地点で、ライトトラップにより生息が確認された。

生態情報から、本種は、海岸のマツ林に生息するとされており、当該地域を主な生息域として利用していないと考えられる。また、専門家からは偶来種である可能性を指摘されている。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

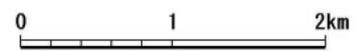


図4.1.5-7(21)
シロスジコガネ確認地点

e-25) カタキンイロジョウカイ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

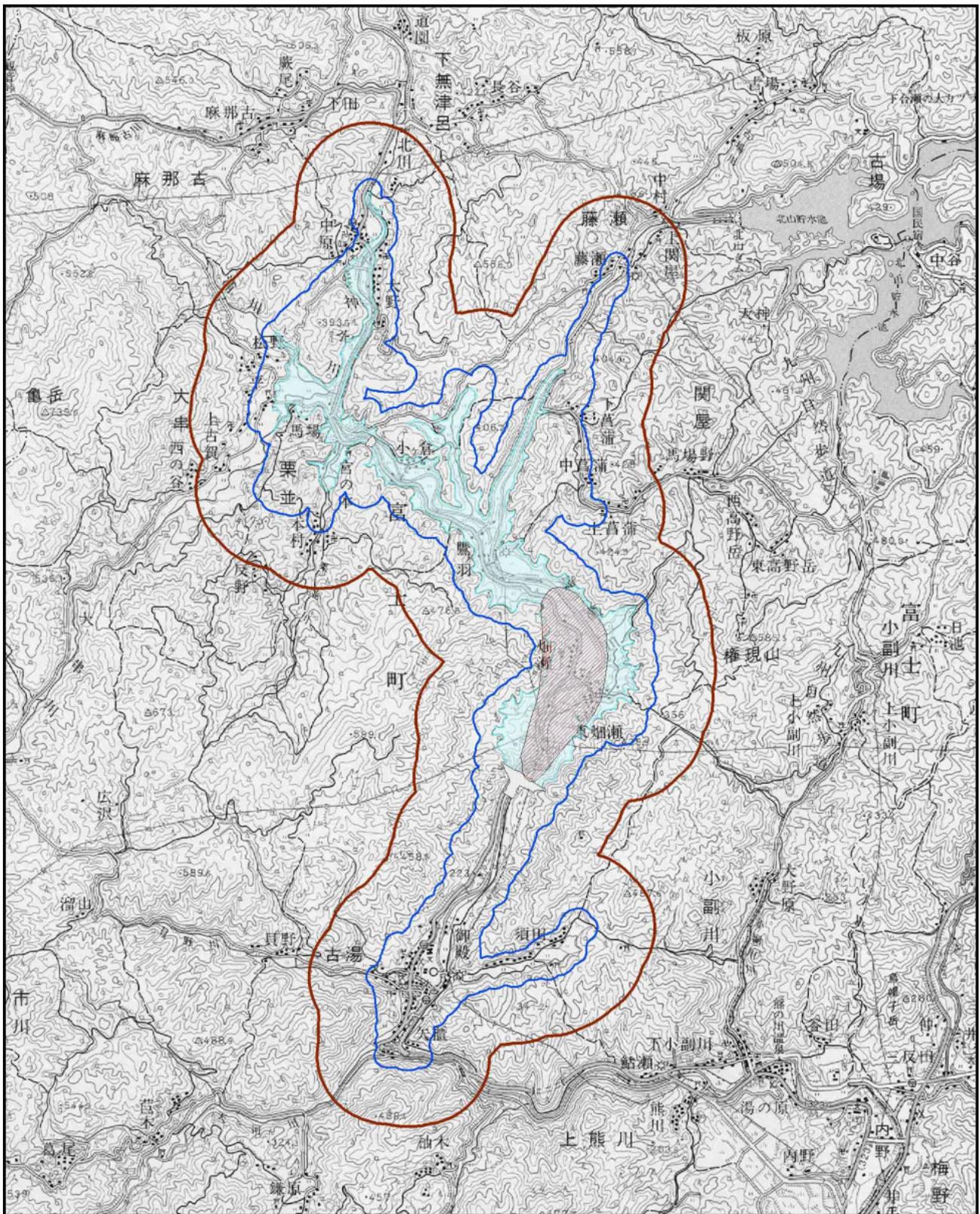
本種の分布及び生態に関する詳細な情報は得られなかった。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(22)に示す。

本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 9 年度に東畑瀬集落南周辺において確認された記録がある。

本種の生息環境については、生態情報が得られなかったため、不明である。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
- * : 確認地点



1:50,000



図4.1.5-7(22)
カタキンイロジョウカイ確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。

e-26) ゲンジボタル

i) 重要性

底生動物の項を参照

ii) 生態

底生動物の章を参照

iii) 調査結果

本種は、詳細な位置情報等の記録が残されていないが、平成9年度の環境巡視において、古湯周辺で100個体～150個体の成虫が確認された記録がある。

このほか、底生動物の調査において、幼虫が確認されている。

また、調査による確認地点は、幼虫と併せて図4.1.5-8(9)に示す。

e-27) ミヤママルカツオブシムシ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成12年4月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種の分布及び生態に関する詳細な情報は得られなかった。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-7(23)に示す。

本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、平成9年度に東畑瀬集

落南周辺において確認された記録がある。

本種の生息環境については、生態情報が得られなかったため、不明である。

e-28) ウスキホシテントウ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国(山地帯)に分布する⁴⁷⁾。佐賀県内の分布及び種の生態に関する詳細な情報は得られなかった。

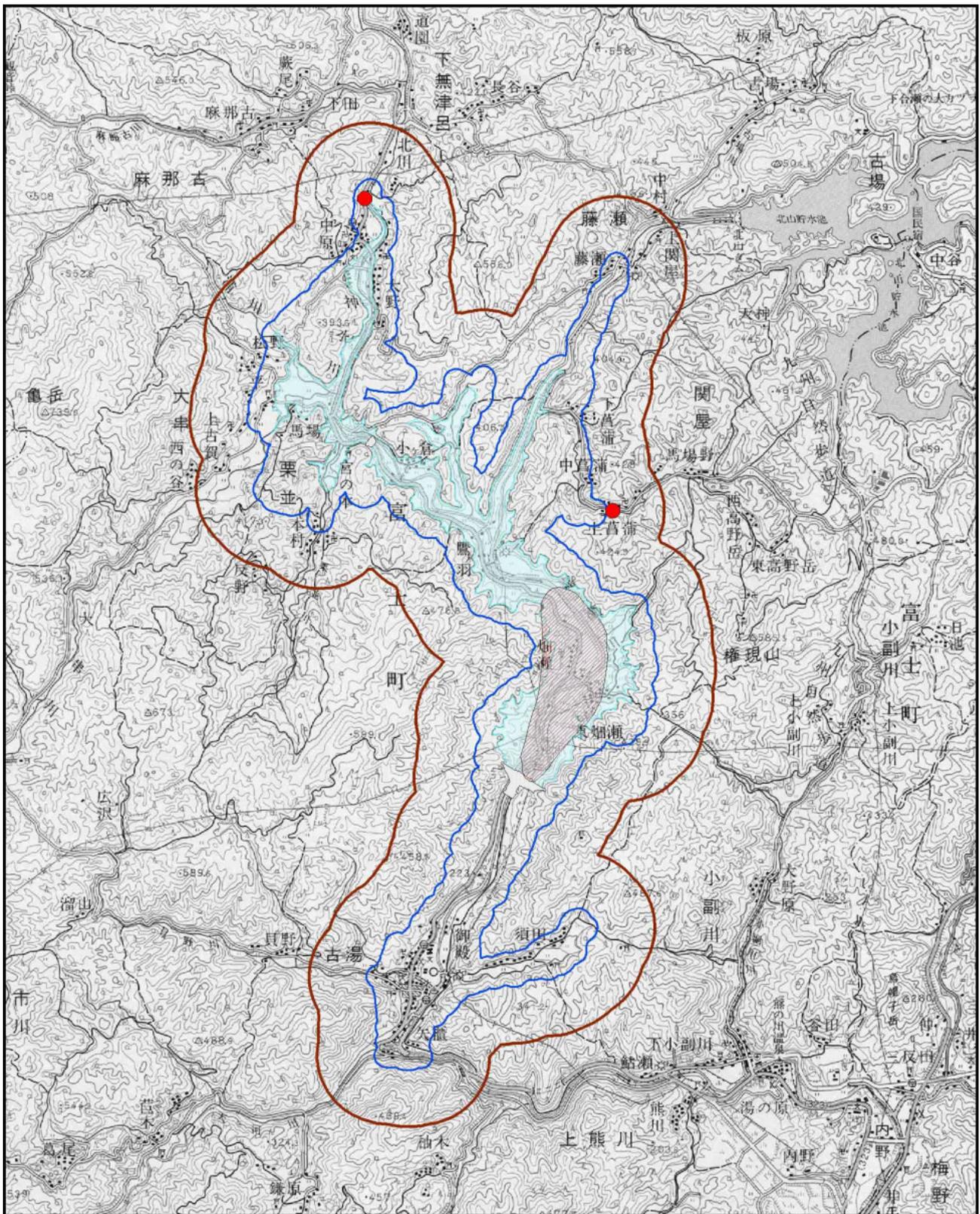
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(24)に示す。

本種は、平成 14 年度の調査において、関屋地区の上菖蒲集落周辺 1 地点、神水川の北川橋下流 1 地点、合計 2 地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 9 年度に東畑瀬集落南周辺において確認された記録がある。

確認地点の環境は、林縁等であり、各地点で 1 個体が確認された。

本種の生息環境については、生態情報が得られなかったため、不明である。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-   } : 確認地点



1:50,000

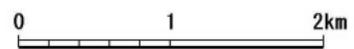


図4.1.5-7(24)
ウスキホシテントウ確認地点

* : この範囲内で確認した記録がある。